

資料 6

国頭村・東部周遊拠点施設

事業資料

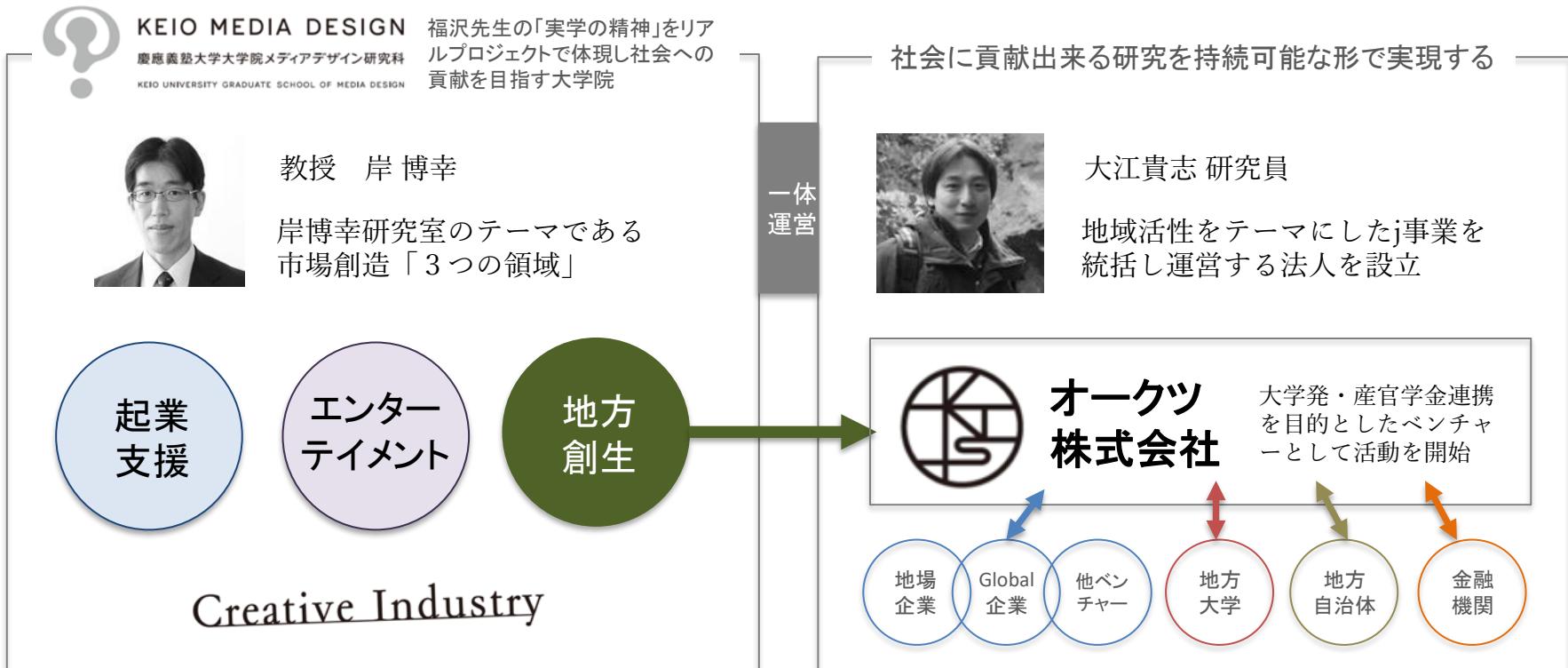


オークツ株式会社
(東部周遊拠点施設・指定管理候補者)



1. 運営母体・オークツ株式会社について

研究室の地方創生関連のプロジェクトをスピンオフし、オークツ株式会社を創業



2. 地域みらいプロジェクトについて

地域にて産官学金の協定を結び、農業6次化、地域産業の振興支援の体制を整備

環境

地域環境の維持＆サステナブルな消費支援

- ・カーボンオフセットに向けたグリーン購買促進
- ・エコ消費、施設、自然エネルギーへの助成
- ・サーキュラーエコノミー(リユース、リサイクル)の推進

社会

新たな産業を創造・誘致し、働く人が住みやすい環境に

- ・若者や働く層が住みたくなる住宅の整備促進
- ・高齢者の購買・移動手段の確保
- ・地域コミュニティの維持と交流促進

地域経済

地消地産を推進し「稼げる」産業で持続可能へ

- ・6次化商品・地域工芸の開発支援(農林水産業のDX化・高付加価値化推進)
- ・産業観光の推進(ワーケーション・リモートワークなど中期滞在型ニーズの発掘)
- ・ベンチャー、大企業の支店誘致と産業交流促進

持続可能な地域の”みらい”を検討し、積極的に実行する

3. 東部周遊拠点施設整備事業について

やんばる東部エリアへの集客(目的地型)を目指し、関連施設と連携した周遊拠点を目指す

【施設予定地】

東部周遊拠点施設

〒905-1504 沖縄県国頭郡国頭村字安波(くにがみそん・あは)

※那覇空港から車で約2時間

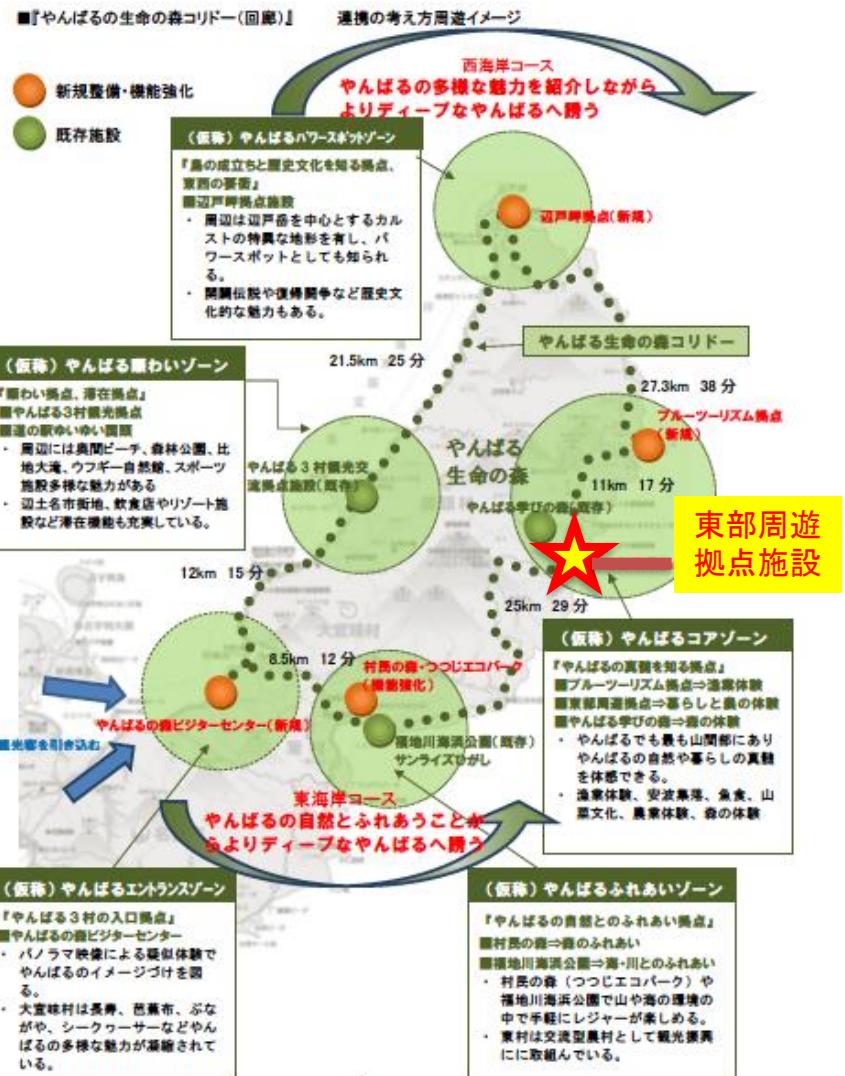
※国頭村役場(住居地区)から約30分

【スケジュール】 予定

2022年1月頃ウェットオープン (支援者と協力しながらビルトアップ)

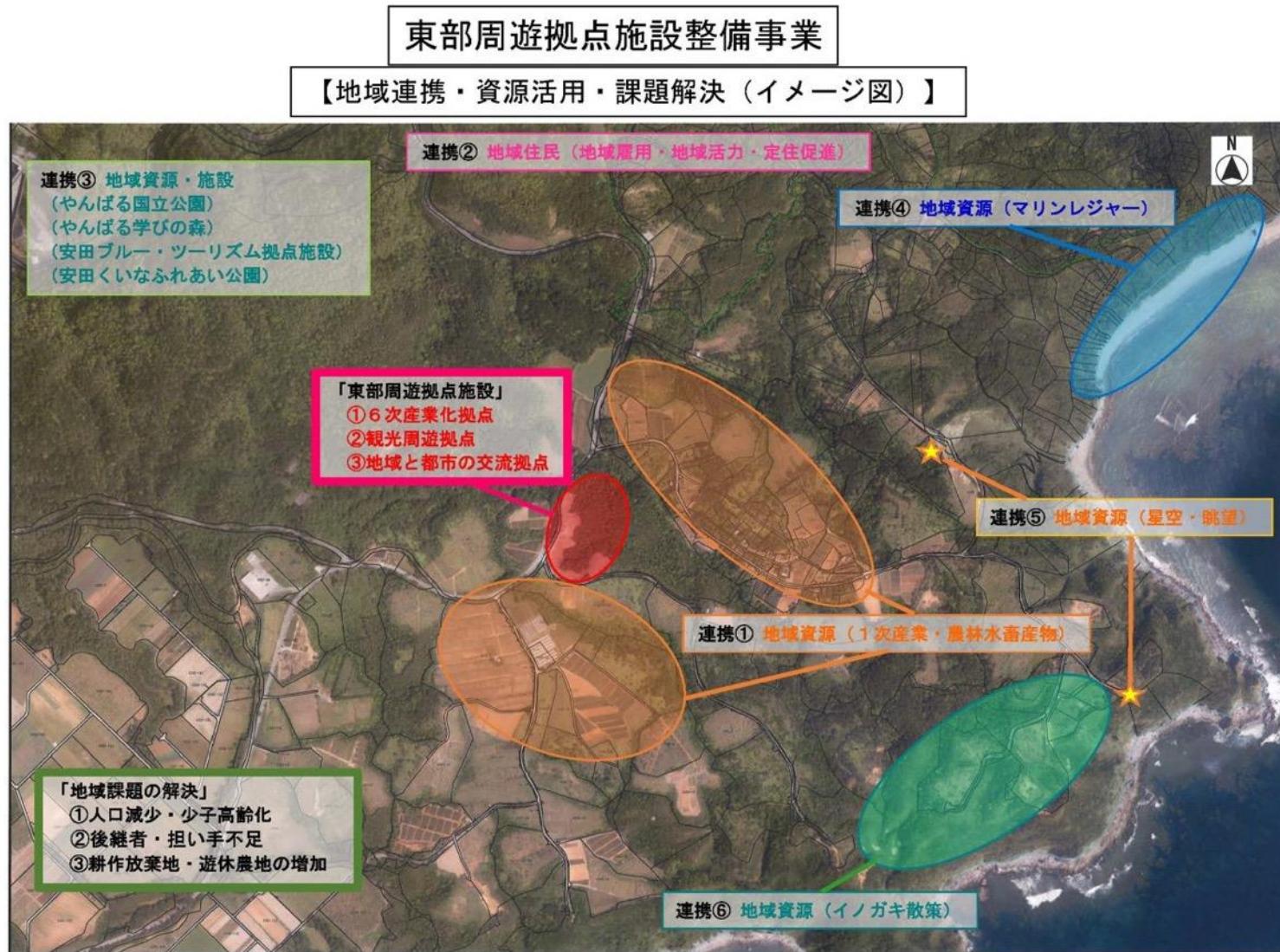
2022年2月ソフトオープン (オペレーションテスト)

2022年3月グランドオープン (一般利用開始)



4. 周辺エリアとの連携

森・丘・海に立地し、地域の素材を活かした企画を周辺施設と実行、持続可能な地域発展を目指す



【参考】施設概要



交流棟

263 m² (約80坪)

- 1F
飲食・カフェスペース
木工スペース
コワーキングスペース
- 屋上
眺望施設



本体棟

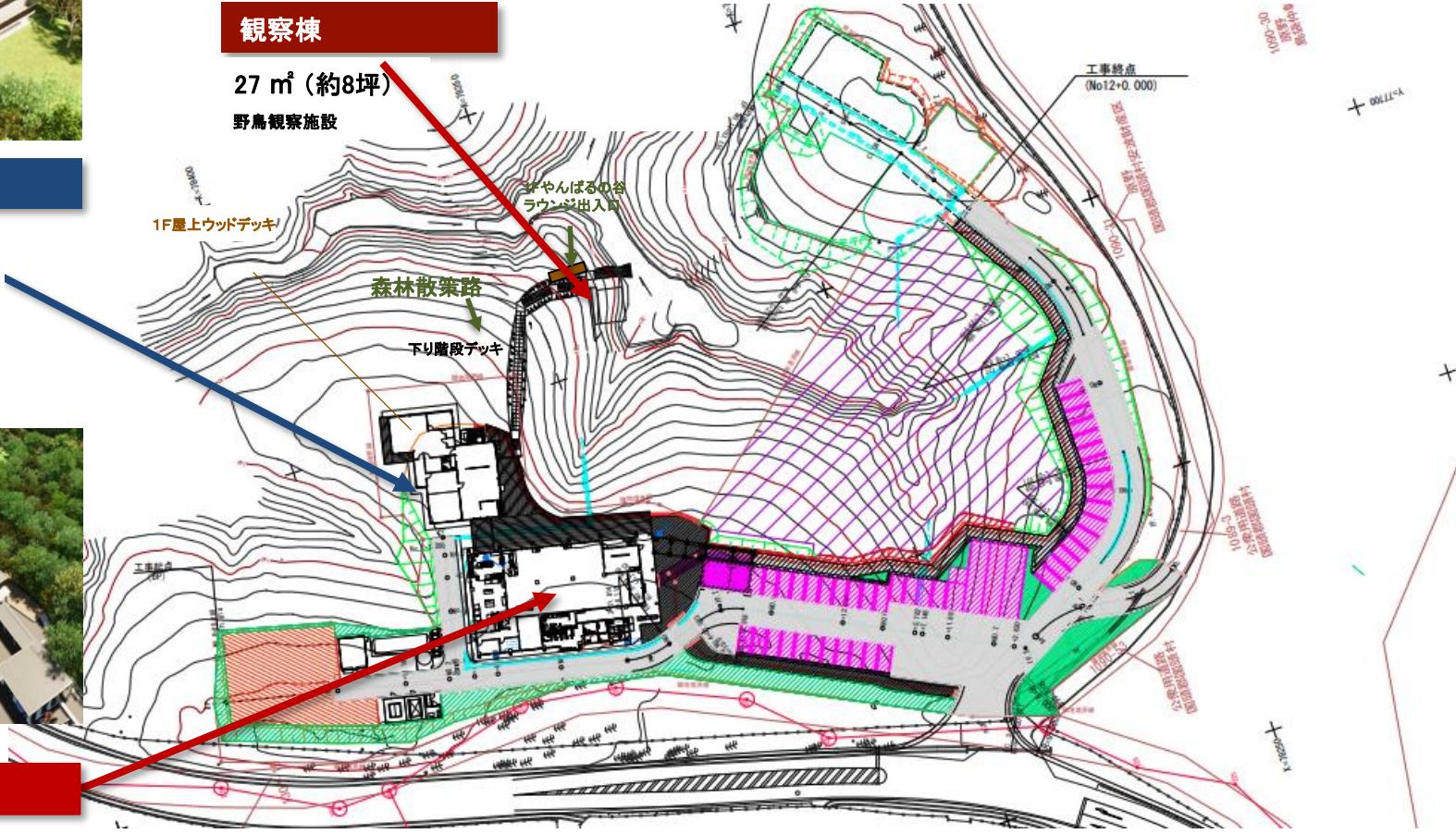
568 m² (約170坪)

- 物販・カフェ・観光案内施設
食品工房

観察棟

27 m² (約8坪)

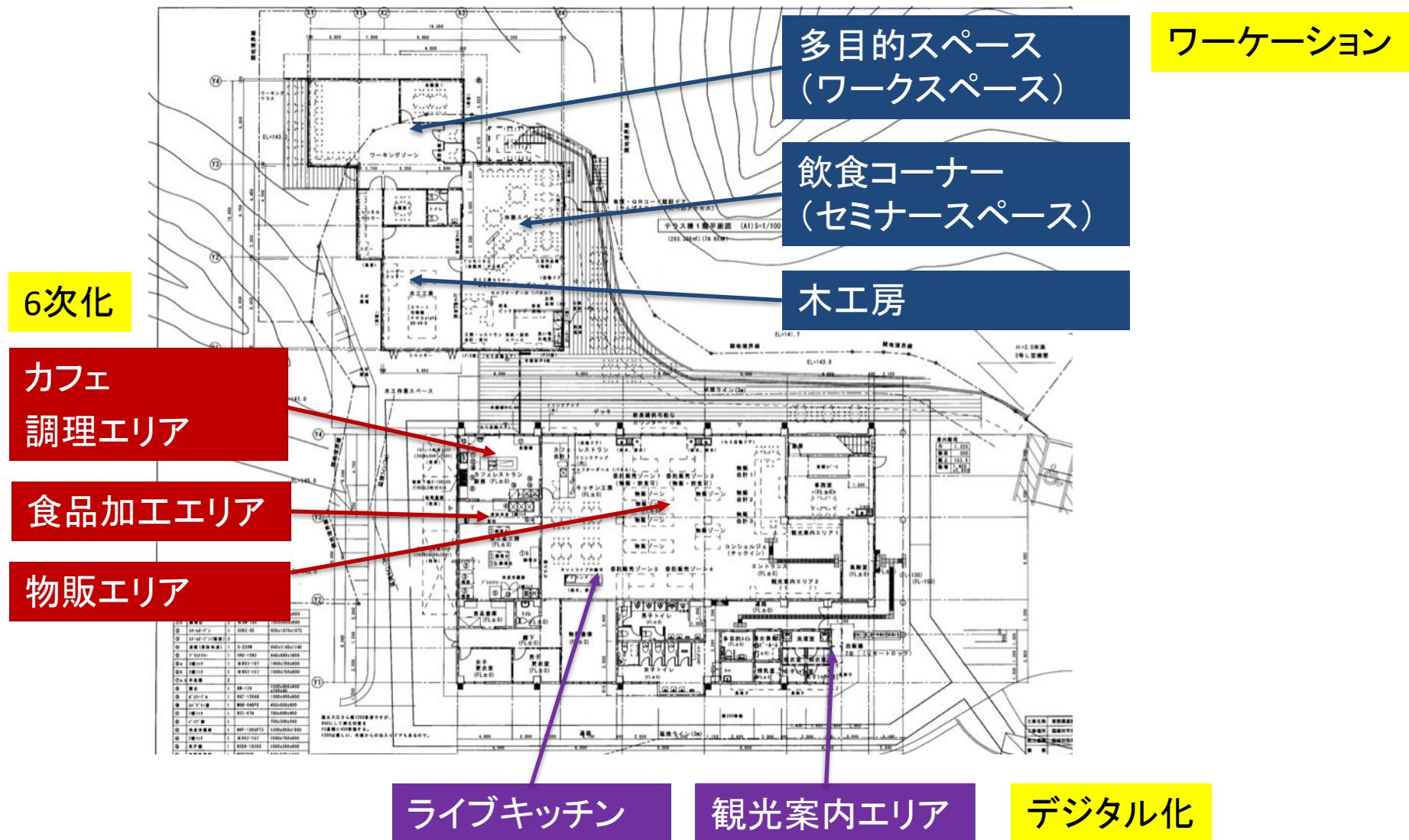
野鳥観察施設



※イメージパースは仮作成版

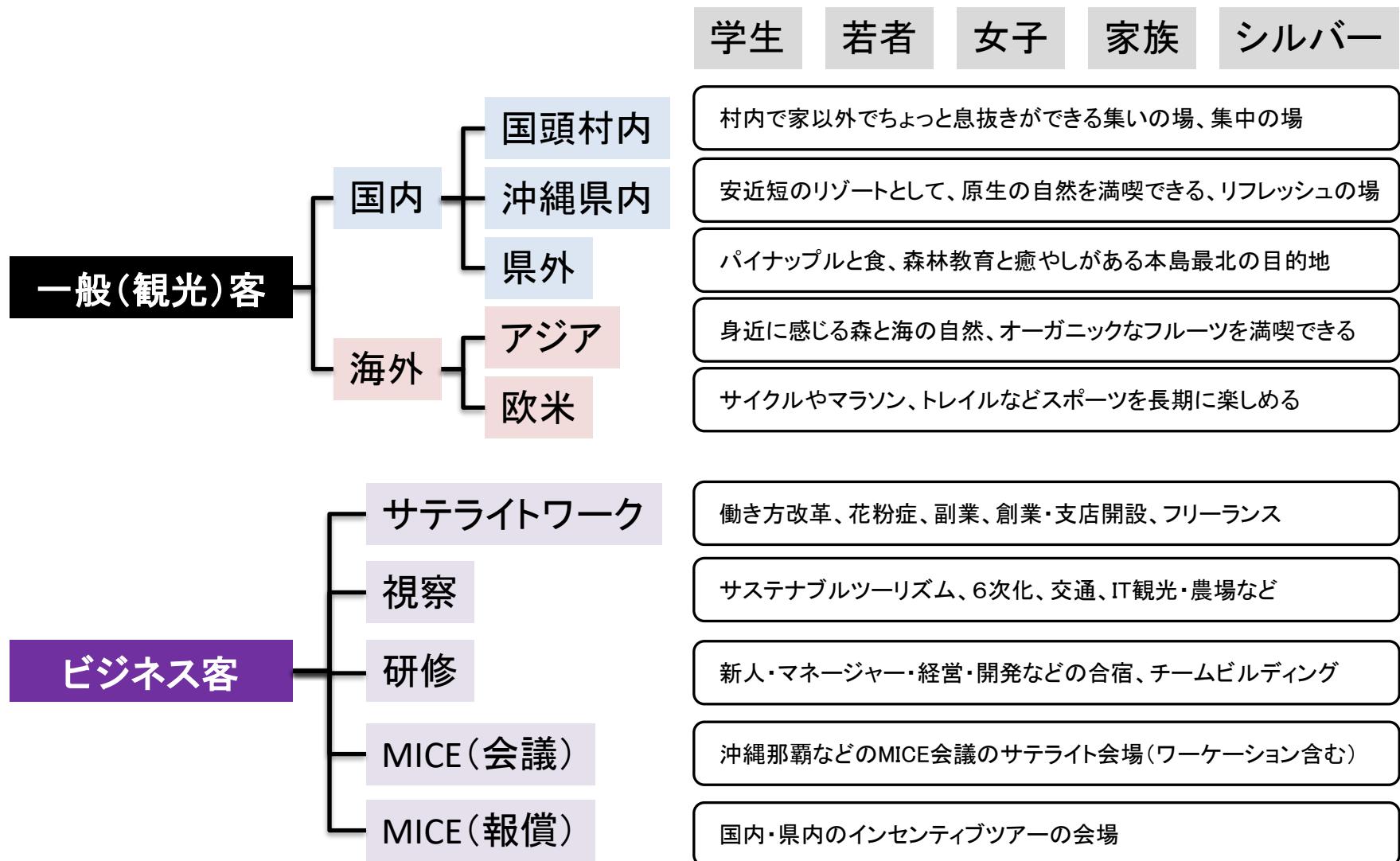
【参考】建物計画（予定）

産業創造拠点として「工房機能(食・木)」を整備、販売・観光案内、ライブ配信設備と連携して6次化拠点化



5. 主なターゲット層

国内外の観光客だけでなく、研修や遠隔勤務など教育・ビジネス需要を年間通じた需要を開拓



5. 6次化支援・食材加工施設

地域性材料で、地域オリジナルの商品を生産者や住民と一緒に開発、体験できる施設を予定

周辺農地(休耕地)の活用

安波エリアの農地を活用し、地域の農業従事者と連携して、施設で販売する商品の作物を生産。6次化事業で実績のある企業との連携予定。



例) パイナップルや地域野菜、魚など加工に適した作物を中心に生産支援

加工して付加価値化

施設の工房スペースや液体冷凍、オーブンなどを活用し、カフェ・レストランのメニュー・パイナップルケーキやデザートなどお土産品として販売できる商品を開発。



■熱伝導が20倍

熱伝達の早い液体を介すことにより、凍結速度は20倍!細胞を破壊する時間を与えない。



細胞を破壊しないため劣化しない



■ドリップが極少

食品の旨み成分や水分を逃がさず、生のまま変わらないみずみずしさを維持。



解凍後はチルドと同等の品質



ドリップが(出る)
(ステーキなど)

■品質の向上

味、食感、見栄え、歩留まり、全てにおいて信じられない成果が!



見た目にも美しい冷凍が可能

例) 高品質な冷凍技術の活用によりフードロスを防止した魚肉・果実の加工も可能

高品質な冷凍技術や加工を活用し、フードロス防止と付加価値向上を目指す

6. 木工房施設

やんばる材など様々な木材の加工を通じて林業や自然との連携理解を深める施設として稼働予定

やんばる材などの活用

木工ベンチャー企業と連携して地域の木材を活用し、受注オーダー型の木加工生産を実施。森林教育と併せて木製品を通じた地域環境、水資源などの研修などを開催。



やんばるの森と水、環境をテーマに地域産業との共生の歩みを理解

7. コワーキング施設

中期滞在型の施設整備による、「休日」に偏在した観光の平準化と「働き方改革」支援

休暇の分散化と新しい旅行スタイルの普及



- Go to Travel Campaignの広報の中で、感染リスクの低減に資する休暇の分散化、ワーケーションなどの新しい旅行スタイルの普及を図る。
- 同時に、観光地や宿泊施設において、「新しい旅行スタイル」を実施するためのコンテンツ整備、受入環境整備を進める。

目的

休暇の分散化

→ 企業への働きかけと国民への呼びかけ・周知が必要



手段

休暇の分散化を進めるため新しい旅行スタイルを普及

→ ワーケーション、ブレジャー及びサテライトオフィス需要に対応した環境整備、滞在型旅行実現のためのコンテンツ整備

- | | |
|-------------|---|
| * ワーケーション | … テレワークを活用し、リゾート地・温泉地等で余暇を楽しみつつ仕事を行う。 |
| * ブレジャー | … 出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇も楽しむ。 |
| * サテライトオフィス | … 企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス。 |
| * 滞在型旅行 | … 平日を含む一定期間、好きなところに滞在して、地域の自然、食事、文化を体験し、学び、楽しむ。 |



新緑の美しい、やんばるの森



例)

スギ花粉の影響が少ない春に長期滞在
→ 地域企業と交流を通じて商品開発支援

「自然との共生」研修、遠隔勤務支援を予定